

## 集団規定(共通)チェックシート

		建築確認年月日・番号	平成 年 月 日 第 号					
検査項目	内 容	確認日付		検査方法	結 果			
		施 工 者	監 理 者	A:目視検査 B:計測検査 C:監理報告	一次 判定	判定 月日	二次 判定	判定 月日
①敷地の安全性 (法19条) 県条例等	1. かけ又は擁壁の安全性	/	/	A・B・C		/		/
	2. 敷地の高低差	/	/	A・B・C		/		/
②敷地と道路 の関係 (法42条43条) 県条例等	1. 前面道路の幅員	/	/	A・B・C		/		/
	2. 接道長さ	/	/	A・B・C		/		/
	3. 敷地内通路	/	/	A・B・C		/		/
③敷地面積 容積率 建ぺい率 (法52条53条)	1. 敷地形状の確認	/	/	A・B・C		/		/
	2. 確認申請図面との照合	/	/	A・B・C		/		/
		/	/			/		/
④外壁後退等 (法54条)	1. 建物配置の確認	/	/	A・B・C		/		/
⑤道路斜線等 (法55条56条 58条)	1. 各部分の高さの確認 (立面図等との照合)	/	/	A・B・C		/		/
	2. 緩和規定適用の場合の後退部分の外 構制限及び前面道路との高低差等	/	/	A・B・C		/		/
⑥確認表示板 設置 (法89条)	1. 確認表示板の設置及び記載内容の確 認	/	/	A		/		/
⑦工事現場の 危害の防止	政令第136条の2の16～第136の条8 仮囲い、防護ネット等	/	/	A		/		/
⑧その他		/	/	A・B・C		/		/

工事監理等への指摘事 項及び不具合の処置								
合 否 判 定	一次 判定	合 格 ・ 不 合 格			二次 判定	合 格 ・ 不 合 格		
検 査 年 月 日	平 成 年 月 日			検 査 員 職 氏 名				

※ 太線枠内は記入しないでください

# 共通チェックシート検査項目解説

## 1. 中間検査留意事項

- ・ 工事監理者が、工事着工前に選任され、設計図書どおりに施工されているかを確認しているか。
- ・ 建築確認後に計画変更があった場合、計画変更確認等の手続きがされているか。
- ・ 工事監理の状況(中間検査申請書第4面)が的確に記載されているか。

## 2. 検査項目の解説

- ① ・ 擁壁の設置有無及び申請手続きがなされているか確認する。
  - ・ 建築基準法第19条第1項～第4項までについて、確認図書と整合しているか確認する
- ② ・ 土浦市建築基準法条例第3条、第4条、第6条及び第22条について、確認図書と整合しているか確認する。
  - ・ 建築基準法施行令第128条、第128条の2及び土浦市建築基準法条例第37条及び第39条について、確認図書と整合しているか確認する。
- ③ ・ 土浦市建築基準法等施行細則第16条について、確認図書と整合しているか確認する。
- ⑤ ・ 各部分の高さが立面図等と整合しているか確認する。
  - ・ 道路斜線の緩和等、高さの緩和を適用している場合は、その条件のとおりか確認する。
- ⑦ ・ 木造で高さが13m若しくは軒の高さが9mを超えるもの。
  - ・ 木造以外で2以上の階数を有するもの。

上記の建築物については、建築基準法施行令第136条の2の16から第136条の8規定が適用されるので、仮囲い、防護ネット等適切な措置がなされているか確認する。

(鉄骨造)

検査項目	内 容	確認日付		検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理報告	結 果			
		施 工 者	監 理 者		一 次 判 定	判 定 月 日	二 次 判 定	判 定 月 日
① 加工工場における品質確認	1 加工工場の選定	建築物の規模等の条件に見合った類別であること	/	/	C	/	/	/
	2 材料の品質確認	鋼材、高力ボルトセット、溶接材料の規格	/	/	C	/	/	/
	3 組立精度の確認	開先角度、ルート面、ルートキャップ、食い違い等の精度	/	/	C	/	/	/
	4 製品検査Ⅰ（部材の寸法精度測定）	部材の寸法精度	/	/	C	/	/	/
	5 高力ボルト接合部の処理	高力ボルト接合部の摩擦接合面の処理、ボルト孔の径、ピッチ等	/	/	C	/	/	/
	6 製品検査Ⅱ（溶接接合部の品質）	溶接方法 外観検査及び超音波探傷検査結果	/	/	C	/	/	/
② 現場検査	1 全体	1) 加工工場の類別	表示板による加工工場の類別プレート確認	/	/	A	/	/
		2) 部材の配置	柱、梁、ブレース、床版等の配置	/	/	A・C	/	/
		3) 部材の寸法・形状	柱、梁、ブレース、床版等の寸法・形状	/	/	A・B・C	/	/
		4) 建て方精度	架構の建て方精度	/	/	A・C	/	/
	2 基礎・地盤	1) 支持地盤	根伐り底の確認、地耐力等	/	/	C	/	/
		2) 基礎形状	a.基礎の種類、杭の工法、長さ、径、位置、杭頭補強、偏心等	/	/	C	/	/
			b.ベース寸法、主筋の径、本数、位置、偏心による補強	/	/	C	/	/
		3) 地中梁	断面寸法、主筋径、本数、位置、定着方法、継手（位置、長さ）、あばら筋の位置、径、間隔、形状、偏心による補強等	/	/	C	/	/
	4) 立ち上り	断面寸法、主筋径、本数、定着方法、帯筋径、間隔、形状等	/	/	C	/	/	
	3 溶接接合部	1) 工場溶接部分の外観・形状	a.溶接継ぎ目の種類（突合せ溶接・すみ肉溶接・まわし溶接）	/	/	C	/	/
			b.溶接継ぎ目の食い違い	/	/	C	/	/
			c.アンダーカット等の断面欠損	/	/	C	/	/
d.われ			/	/	C	/	/	
e.その他の溶接部分の外観・形状			/	/	C	/	/	
f.スカップ、エントリ、裏あて金物			/	/	C	/	/	
2) 現場溶接部分組立精度確認		開先角度、ルート面、ルートキャップ、食い違い等の精度	/	/	C	/	/	
3) 現場溶接部分の製品検査		外観検査及び超音波探傷試験検査結果	/	/	C	/	/	
4) 現場溶接部分の外観・形状		a.現場溶接部の部位	/	/	A・C	/	/	
		b.溶接継ぎ目の種類（突合せ溶接・すみ肉溶接・まわし溶接）	/	/	A・C	/	/	

検査項目		内 容	確認日付		検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理報告	結 果			
			施 工 者	監 理 者		一 次 判 定	判 定 月 日	二 次 判 定	判 定 月 日
② 現場検査	3 溶接接合部	4)現場溶接部分の外観・形状	c.溶接継ぎ目の食い違い	/	/	C	/	/	/
			d.アンダーカット等の断面欠損	/	/	C	/	/	/
			e.われ	/	/	C	/	/	/
			f.その他の溶接部分の外観・形状	/	/	C	/	/	/
			g.養生方法	/	/	C	/	/	/
	4 ボルト接合部	1)トルシア型	a.現場受け入れ検査(トルク計数値確認・導入張力確認試験)	/	/	C	/	/	/
			b.ボルトの径、本数、スプライス数、間隔、縁あき、端あき	/	/	A・C	/	/	/
			c.締付け状態の確認(肌すき、ヒンテール破断・マーキングの状態)、摩擦面の処理	/	/	A・C	/	/	/
		2)JIS 型六角	a.締付け機器の調整、現場受け入れ検査(導入張力確認試験)	/	/	A・C	/	/	/
			b.ボルトの径、本数、スプライス数、間隔、縁あき、端あき	/	/	C	/	/	/
			c.締付け状態の確認(肌すきの有無・マーキングの状態)、摩擦面の処理	/	/	A・C	/	/	/
	3)中ボルト	ボルト径、本数、ゆるみ止め	/	/	A・C	/	/	/	
	5 ブレース	a.ブレースの形式・板厚・材質・補剛材等	/	/	A・B・C	/	/	/	
		b.ボルト径、本数、たわみのチェック	/	/	A・C	/	/	/	
	6 柱脚接合部	a.柱脚接合工法の良否(認定工法→ )	/	/	A・C	/	/	/	
		b.ベースプレートの材質・形状・板厚	/	/	A・C	/	/	/	
		c.アンカーボルトの材質・径・本数及び配置、保持・埋め込み方法、締め付け状態(余長)	/	/	A・C	/	/	/	
		d.スタットボルトの径・本数・配置	/	/	A・C	/	/	/	
	7 床スラブ	a.床構造の形式	/	/	A・C	/	/	/	
		b.接合部の施行状況	/	/	A・C	/	/	/	
検査時に必要な図書		<input type="checkbox"/> 工事監理報告書 <input type="checkbox"/> 認定・評定等の写し <input type="checkbox"/> 確認図書 <input type="checkbox"/> 設計図書 <input type="checkbox"/> 工事写真(工程別検査に工事監理者が入っているもののほか、施工監理上重要な個所) <input type="checkbox"/> その他検査に必要な書類 製作要領書 鋼材シート 鉄骨工事施工結果報告書 溶接部社内検査結果報告書 溶接部受け入れ検査結果報告書 その他工事監理上重要で工事監理者が確認した書類等 鉄骨精度測定結果 杭工事施工結果報告書 コンクリート圧縮強度試験結果報告書 鉄筋シート							

※ 太線枠内は記入しないでください

# 鉄骨造チェックシート検査項目解説

## 検査の重要項目

鉄骨工事の中間検査では、構造耐力上で重要な部位が確認申請書及び添付図書のとおり施工されているかを重点的に検査する。

既に施工された部分、隠蔽されて見えない部分、鋼材の材質、溶接部検査結果報告書、製品検査結果報告書等については、工事監理者から施工状況の報告を求め報告書で確認する。

## ① 加工場における品質確認

### 1 加工場の選定

- ・ 鉄骨加工場の選定にあたっては、当該鉄骨工事に係わる建築物の規模・形状・構造種別・架構形式・使用鋼材の種類と板厚・溶接方法の種類等に対して十分な技術と設備を持ち、有効な品質管理体制を備えていることを確認する。
- ・ 工事監理者や工事施工者が選定にあたってどのような調査を行ったかを確認する。

### 2 材料の品質管理

- ・ 溶接接合する鋼材、溶接材料(被覆アーク溶接棒・ワイヤ・フラックス・及びガス等)高力ボルトセットの種類・規格・品質等を確認図書又は設計図書との照合により確認する。

### 6 製品検査Ⅱ(溶接接合部の品質)

- ・ 溶接部に関する受入検査の一環として、鉄骨加工場の自主検査がどのように行われたか、また、不具合部の処置はどのように行われたか等について、鉄骨加工場が作成した「溶接部の社内検査報告書」等によって確認し評価する。
- ・ 溶接部の品質に関する受入検査は、外観検査(表面欠陥の検出)及び超音波探傷試験(内部欠陥の検出)について行う。

## ② 現場検査

### 1 全体

#### 1)加工場の種別

- ・ 鉄骨加工工場名を記載した表示板が掲載されていることを確認する。

#### 2)部材の配置

- ・ 柱、梁、ブレース、床版等各部材の配置が、確認添付図書と整合していることを確認する。この部材配置は、建築物の構造上の性能に対する影響が大きいため慎重にチェックする。

#### 3)部材の寸法・形状

- ・ 柱、梁、ブレース、床版等各部材の寸法・形状が、確認添付図書と整合していることを確認する。

#### 4)建て方精度

- ・ 建て方検査は、建て入れ直しの状況及び仮締めボルトの位置・本数等は、倒壊防止措置等について確認を行う。

## 2 基礎・地盤

### 1) 支持地盤

- ・ 工事監理報告により、根伐り底、土質、地耐力等を確認する。

### 2) 基礎形状

- ・ 工事監理報告により、基礎の種類、配筋状況、型枠組立状況等を写真で確認する。
- ・ 杭の工法(特殊な杭の工法の場合は認定番号等)、長さ、径、位置、杭頭補強、杭の芯ずれ等を確認する。
- ・ 工事監理報告により、ベース寸法、主筋の径、本数、位置、芯ずれによる補強等を確認する。また、配筋状況、型枠組立状況等を写真で確認する。

### 3) 地中梁

- ・ 工事監理報告により、断面寸法、主筋の径、本数、位置、定着方法、継手、あばら筋の位置等を確認する。

### 4) 立ち上り

- ・ 工事監理報告により、断面寸法、主筋の径、本数、定着方法、帯筋径、間隔・形状等を確認する。また、配筋状況、型枠組立状況、アンカーボルト等の取付状況を写真で確認する。

## 3 溶接接合部

### 1) 工場溶接部分の外観・形状

- a 突合せ溶接か、すみ肉溶接(部分溶込み溶接、まわし溶接を含む)かについて、確認添付図書(必要に応じて設計図書)と照合する。

### 3) 現場溶接部分の製品検査

- ・ 溶接部の外観検査及び超音波探傷検査については、工場製作における溶接部の受け入れ検査と同様に行う。ただし、現場溶接工事の場合、工程・工期や溶接作業の進め方等の関係から自主検査が省略され、受入検査のみが実施されるケースが多いため、原則として全数検査が行われていることを確認する。

### 4) 現場溶接部分の外観・形状

- a 現場溶接を採用した接合部の位置・形状・寸法を確認図書と照合して確認する。高力ボルト接合から現場溶接接合に変更するケースが増えているので注意する。
- b 突合せ溶接かすみ肉溶接(部分溶け込み溶接、まわし溶接を含む)かについて、確認添付図書(必要に応じて設計図書)と照合する。

## 4 ボルト接合部

### 1) トルシア型ボルト

- ・ 設計図書に基づいて、高力ボルト接合を採用する部位を確認する。
- ・ 高力ボルトの認定番号、ボルト径やメーカーごとにトルク計数値、現場張力導入試験が行われていることを確認し、使用する高力ボルトセットの品質の良否を確認することが望ましい。
- ・ ボルトの径、本数、スプライス数、間隔、縁あき、端あき等について、確認図書と照合する。
- ・ 締付けに先立ち、摩擦接合面、ボルト径・孔のくい違い・肌すき、ピンテール破断等を確認し、一次締付後に全数のマーキングを行った上で本締めをしていることを確認することが望ましい。

## 2) JIS型六角ボルト

- ・ 設計図書に基づいて、高力ボルト接合を採用する部位を確認する。
- ・ ボルト径ごとやメーカーごとに現場張力導入試験が行われていることを確認し、使用する高力ボルトセットの品質の良否を確認することが望ましい。
- ・ ボルトの径、本数、スプライス数、間隔、縁あき、端あき等について確認図書と照合する。
- ・ トルシア型ボルトの締付け方法は、トルクコントロール法であり溶融亜鉛メッキ高力ボルトの締付け方法はナット回転法である。JIS型六角高力ボルトは、いずれの方法も用いることができるが、通常はトルクコントロール法が用いられる。
- ・ 締付けに先立ち、摩擦接合面、ボルト径・孔のくい違い・肌すき等を確認し、一次締付け後に全数のマーキングを行ったうえで本締めしていることを確認することが望ましい。
- ・ 本締め検査は、六角高力ボルトの場合にはトルクレンチによる締付けトルクの確認及びマークのずれにより、締付け状態及び共回りの有無を確認することが望ましい。

## 3) 中ボルト

- ・ ボルト径、本数、締付け状態を確認する。

## 5 ブレース

- ・ ブレースの構造形式(水平・垂直共、K型、V型、X型等)を設計図書と照合し、部材の寸法、材質及び接合部(ブレース端部、柱・梁部分の横補剛等)の構造詳細を確認する。
- ・ ボルト径、本数、たわみ等がないか確認する。

## 6 柱脚接合部

- ・ 鉄骨造における柱脚は、鉄骨柱とRC造基礎との接合部であり、基本的には、次の4つの要素で構成されている。  
・ベースプレート ・アンカーボルト ・ベースモルタル ・基礎鉄筋コンクリート
- ・ 柱脚の検査にあたっては、柱脚を構成する4つの要素に期待する性能が、柱脚の応力伝達の条件に対応して異なることに注意し、確認図書と照合する。
- ・ 柱据付け面の状況、アンカーボルトの据付け状況(径、長さ・取付け位置等)、露出型固定柱脚の施工状況(認定工法の場合は、認定番号、メーカーの設計施工チェックシート等による確認)等について確認する。
- ・ アンカーボルトの据付け保持・埋込み方法は、鋼製フレーム固定法、型枠固定法等が望ましい。ベースプレートの材質・形状・板厚については確認図書で確認する。
- ・ アンカーボルトの材質・径・本数・配置等については、確認図書と照合する。また、ボルトの余長を確認する。
- ・ ナットの締付けは、ベース下充填モルタルが十分硬化した後、各ボルトの張力がほぼ均等になるように締付けなければならない。通常は、ナット回転法で管理する。・通常スタッドボルトは、工場でスタッド溶接しているため、溶接管理については監理報告等で確認する。

## 7 床スラブ

- ・ 設計図書で床構造の形式及び使用部材の種類、板厚等を確認図書と照合する。  
・デッキプレート ・合成スラブ用デッキプレート(認定製品有り)  
・床型枠用鋼製デッキプレート
- ・ シアーコネクタ(頭付きスタッド、焼抜栓溶接等)の施工状況は、報告書を審査し、現場の施工状況を目視で確認する。

(鉄筋コンクリート造)

検査項目	内 容	確認日付		検査方法	結 果				
		施工者	監理者	A:目視検査 B:計測検査 C:監理者報告	一次判定	判定 月日	二次判定	判定 月日	
①全体	工程全体の配筋状況	1. 乱れ、踏荒し、波打ち、たるみの有無	/	/	A・C		/		/
	共通	1. 柱、はり、壁及びスラブの位置	/	/	A・C		/		/
		2. かぶり厚さの確保	/	/	A・C		/		/
		3. 鉄筋の材質	/	/	C		/		/
②地盤・基礎	支持地盤	1. 支持地盤の位置、種類及び地耐力等	/	/	C		/		/
	基礎形状	1. 基礎の種類、くいの工法、長さ、径、位置及び偏心等	/	/	C		/		/
	ベース	1. ベース寸法、主筋の径、本数及び間隔、偏心による補強等	/	/	C		/		/
	地中ばり	1. 地中ばりの断面寸法、主筋の径、本数、位置、定着方法及び継手(位置、長さ)、あばら筋の位置、径、間隔及び形状、偏心による補強等	/	/	C		/		/
③柱	柱主筋	1. 柱の断面寸法、主筋の径、本数及び配置(方向)	/	/	A・B・C		/		/
		2. 2段筋の位置(間隔)	/	/	A・C		/		/
		3. 柱頭鉄筋の止まり高さ及び主筋の出隅のフック	/	/	A・C		/		/
	継手	1. 主筋の継手位置、長さ、主筋出隅のフック	/	/	C		/		/
	帯筋	1. 帯筋の径、間隔、本数(副帯筋共)及び形状	/	/	A・B・C		/		/
		2. 主筋絞り部、折曲げ部の帯筋補強	/	/	A・C		/		/
		3. 仕口部分の帯筋の配置	/	/	A・C		/		/
		4. 第一帯筋と柱頭拘束帯筋の位置	/	/	A・C		/		/
		5. 帯筋のフック形状、あそび及び結束	/	/	A・C		/		/
④はり	はり主筋	1. はりの断面寸法、主筋の径、本数及び位置	/	/	A・B・C		/		/
		2. 二段筋の第一段筋との間隔及びスパン内の長さ	/	/	A・C		/		/
	定着・継手	1. はり主筋の水平呑込み長さ及び定着長さ	/	/	A・B・C		/		/
		2. 継手の位置及び長さ	/	/	A・B・C		/		/
		3. はり主筋出隅部の継手末端フック	/	/	A・C		/		/
	ふかし・貫通孔補強	1. ふかし部主筋及び補強筋、貫通孔補強筋又は既製認定品、貫通孔と主筋の離れ、複数の貫通孔の局所集中の禁止	/	/	A・C		/		/
あばら筋	1. あばら筋の径、本数(副あばら筋共)及び間隔	/	/	A・B・C		/		/	



検査項目	内 容	確認日付		検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理者報告	結 果				
		施 工 者	監 理 者		一 次 判 定	判 定 月 日	二 次 判 定	判 定 月 日	
はり	あばら筋	2. あばら筋のフック形状、あそび及び結束	/	/	A・C		/		/
⑤スラブ (庇及び階段を含む)	スラブ筋	1. スラブ厚さ寸法、鉄筋径及び間隔	/	/	A・B・C		/		/
		2. 主筋配置(短辺・長辺及びベンド配筋)及び支持条件	/	/	A・C		/		/
	定着・ 重ね継手	1. 定着長さ及び方法(はり・隣接スラブ・段差スラブ定着)	/	/	A・B・C		/		/
		2. 片持スラブの定着及び上端筋の位置確保	/	/	A・B・C		/		/
		3. 継手の位置及び長さ	/	/	A・B・C		/		/
	補強筋等	1. 床スラブの出入隅部の補強	/	/	A・C		/		/
2. 開口部補強		/	/	A・C		/		/	
3. 階段部配筋及び定着・補強筋		/	/	A・B・C		/		/	
⑥壁	壁筋	1. 壁厚寸法、鉄筋の径、間隔及び位置	/	/	C		/		/
	定着・ 重ね継手	1. 定着長さ及び方法(はり・柱・スラブ・壁定着)	/	/	A・B・C		/		/
		2. 重ね継手の位置及び長さ	/	/	C		/		/
補強筋等	1. 開口部補強配筋	/	/	C		/		/	
	2. スリット(完全・部分)の位置、形状及び配筋	/	/	C		/		/	
⑦その他	設備配管等	1. 設備配線管の配置	/	/	A・C		/		/
	ガス圧接 継手	1. 圧接部の形状等	/	/	A・C		/		/
		2. 強度	/	/	C		/		/
	特殊鉄筋 継手	1. 認定、評定工法	/	/	A・C		/		/
	型枠及び 既存打設 部分状況	1. 型枠及び支柱の締付け並びに清掃状況	/	/	A・C		/		/
		2. 型枠支柱存置期間	/	/	C		/		/
		3. コンクリート打設後の養生	/	/	C		/		/
4. コンクリートの調合及び圧縮強度		/	/	C		/		/	
検査時に必要な図書	<input type="checkbox"/> 工事監理報告書 <input type="checkbox"/> 認定・評定等の写し <input type="checkbox"/> 確認図書 <input type="checkbox"/> 設計図書 <input type="checkbox"/> 工事写真(中間検査時に隠蔽される部位で各工程の施工監理上重要な箇所) <input type="checkbox"/> その他検査に必要な書類等								

※ 太線枠内は記入しないでください

# 鉄筋コンクリート造チェックシート検査項目解説

## 検査項目の解説

鉄筋コンクリート工事の中間検査では、構造耐力上重要な部位が、確認申請書及び添付図書のとおり施工されているかどうかを重点的に検査する。

### ① 全体

#### 工程全体の配筋状況

- 各部位の検査に先だって、工程全体の配筋状況を見渡し、鉄筋の乱れ、踏み荒し、波打ち又はたるみ等がなく、整然と配筋されているかどうかを確認する。

#### 共通

- 柱、はり、壁及びスラブの位置を確認する。
- かぶり厚さについては、令第79条による規定で明確な数値が記載されているので、これが確保されているか確認する。
- 鉄筋の材質等は、圧延マークや色別表示による確認方法もあるが、一般的には、工事監理報告によるミルシートで確認する。

### ② 地盤・基礎

#### 支持地盤

- 工事監理報告により、根切り底の土質及び地耐力等を確認する。

#### 基礎形状

- 工事監理報告により、工事写真等で基礎の種類、配筋状況及び型枠組立状況等を確認する。
- 杭打ち施工結果報告書等で工法、長さ、径、位置及び杭の心ずれ等を確認し、写真で杭頭処理や杭頭補強の状況を確認する。

#### ベース

- 工事監理報告により、ベース寸法、主筋の径、本数、間隔及び偏心による補強等を確認する。また、配筋状況及び型枠組立状況等を写真で確認する。

#### 地中ばり

- 工事監理報告により、地中ばりの断面寸法、主筋の径、本数、位置、定着方法及び継手並びにあばら筋の位置、径、間隔及び形状並びに偏心による補強等を確認する。また、配筋状況及び型枠組立状況等を写真で確認する。

### ③ 柱

- 既施工部分については、工事監理報告及び工事写真等で確認する。

#### 柱主筋

- 柱筋リストで柱の断面寸法、主筋の径、本数及び配置方向等を確認する。特に柱主筋の配置がX、Y方向を取り違えている場合があるので注意する。
- 柱筋リストで2段筋の位置、間隔及び押え補助帯筋の状況を確認する。
- 架構詳細図又は仕様書等で柱頭鉄筋の止まり高さ及び主筋の出隅のフック等を確認する。

#### 継手

- 架構詳細図又は仕様書等で主筋の継手の位置及び重ね継手の長さを確認する。また、柱出隅部分の重ね継手における主筋端部のフックを確認する。

#### 帯筋

- 柱筋リスト、架構詳細図又は仕様書等で帯筋の径、間隔、本数及び形状を確認する。また、柱出隅部分の重ね継手における主筋端部のフックを確認する。
- 架構詳細図又は仕様書等で主筋絞り部・折曲げ部の帯筋補強、仕口部分の帯筋の配置並びに第一帯筋と柱頭拘束帯筋の位置を確認する。

- ・ 仕様書等で帯筋のフック形状を確認する。また、帯筋のあそび及び結束状況に注意する。

#### ④ はり

##### はり主筋

- ・ はり筋リストではりの断面寸法並びにはり主筋の径、本数及び位置を確認する。
- ・ 二段筋(中吊り筋)の第一段筋との間隔の確保及びスパン内の長さ等を確認する。

##### 定着・継手

- ・ はり主筋の水平呑込み長さ及び定着長さ並びに継手の位置及び重ね継手の長さ等を確認する。
- ・ はり主筋出隅部の重ね継手末端部のフックを確認する。

##### ふかし・貫通孔補強

- ・ ふかし部主筋及び補強筋等の方法は適切か。貫通孔補強筋が適切であるか。また、既製認定品の場合には認定番号及び仕様等の要件を満たしているか確認する。
- ・ 貫通孔と主筋の離れ及び複数貫通孔の局所集中がないかを確認する。

##### あばら筋

- ・ はり筋リストであばら筋の径、本数及び間隔を確認する。また、フック形状、あそび及び結束状況を確認する。

#### ⑤ スラブ

##### スラブ筋

- ・ スラブ筋リストでスラブ厚さ寸法並びにスラブ鉄筋の径及び間隔等を確認する。
- ・ 主筋と配力筋の方向が正しいか、又ベンド位置及び支持条件が適切か確認する。

##### 定着・重ね継手

- ・ 定着長さ及び方法(はり・隣接スラブ・段差スラブ定着)を確認する。
- ・ 片持スラブの定着長さ及び上端筋の位置が適切に確保されているかを確認する。
- ・ 継手の位置及び重ね継手長さが適切か確認する。

##### 補強筋等

- ・ 床スラブの出入隅部、開口部及び階段部の定着及び補強筋が適切か確認する。

#### ⑥ 壁

##### 壁筋

- ・ 壁筋リストで壁厚寸法並びに壁筋の径、間隔及び位置等を確認する。

##### 定着・重ね継手

- ・ 定着長さ及び方法(はり・柱・スラブ・隣接壁定着)を確認する。
- ・ 重ね継手の位置及び長さが適正に確保されているか確認する。

##### 補強筋等

- ・ 架構詳細図又は仕様書等で開口部補強筋が適切か確認する。また、スリットの位置、形状及び配筋等を確認する。

#### ⑦ その他

##### 設備配管等

- ・ CD管等の設備配線管が局所集中したり、主筋に沿って長い距離を接触していないか確認する。

##### ガス圧接継手

- ・ 圧接部の形状、継手位置及び隣合う間隔等が適正か確認する。
- ・ 圧接部の強度については、超音波探傷試験又は引張試験成績書等で確認する。

##### 特殊鉄筋継手

- ・ 特殊な鉄筋継手については、認定又は評定により承認された工法の施工要領書で確認する。

##### 型枠及び既存打設部分状況

- ・ 型枠、支柱の締付け及び清掃状況を確認する。
- ・ 型枠支柱存置期間及びコンクリート打設後の養生が適切に行われているか確認する。
- ・ 工事監理報告により、コンクリートの調査及び圧縮強度試験について確認する。

(軸組工法)

検査項目	内 容	確認日付		検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:管理報告	結 果			
		施工者	監理者		一次判定	判定 月日	一次判定	判定 月日
①全体	1. 柱・はり・壁・床の位置	/	/	A・C		/		/
	2. 木材の節・腐れ	/	/	A・C		/		/
②基礎・地盤	1. 種類(布・ベタ・その他)	/	/	A・C		/		/
	2. 床下換気口、又はこれに代わるもの	/	/	A・C		/		/
	3. 支持地盤の良否	/	/	C		/		/
	4. 鉄筋・コンクリートの材質	/	/	C		/		/
	5. 配筋の確認	/	/	C		/		/
	6. 基礎の高さ	/	/	A・B・C		/		/
③土台	1. 形状・寸法・材質	/	/	C		/		/
	2. 火打設置位置の確認	/	/	A・C		/		/
	3. 位置の確認	/	/	A・C		/		/
	4. 防腐・防蟻	/	/	A・C		/		/
④アンカーボルト	1. 配置・緊結の状況	/	/	A・B・C		/		/
⑤柱	1. 形状・寸法	/	/	A・B・C		/		/
	2. 接合部の状況	/	/	A・C		/		/
	3. ホールダウン金物の設置位置・接合状況	/	/	A・C		/		/
	4. 位置の確認	/	/	A・C		/		/
	5. 欠込み部の補強の確認	/	/	A・C		/		/
	6. 通し柱の確認	/	/	A・C		/		/
	7. 防腐・防蟻	/	/	A・C		/		/
⑥横架材	1. 形状・寸法	/	/	C		/		/
	2. 継手の位置、接合部の状況	/	/	A・C		/		/
	3. 構造耐力上支障がある欠込み部がないことの確認	/	/	A・C		/		/
⑦筋かい	1. 形状・寸法	/	/	A・B・C		/		/
	2. 欠込み部の補強	/	/	A・C		/		/
	3. 接合部の状況	/	/	A・C		/		/
	4. 形態・配置の確認	/	/	A・C		/		/

検査項目	内 容	確認日付		検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:管理者報告	結 果			
		施 工 者	監 理 者		一 次 判 定	判 定 月 日	一 次 判 定	判 定 月 日
⑦筋かい	5. 防腐・防蟻	/	/	A・C		/		/
	6. 筋かいに替わる合板などの打ち付け(釘の種類・間隔の確認)	/	/	A・B・C		/		/
⑧床組み等	1. 形状・寸法	/	/	C		/		/
	2. 床高さ(又は床下防湿)	/	/	A・B・C		/		/
⑨小屋組み等	1. 形状・寸法	/	/	C		/		/
	2. 必要な振止め、火打ちの設置状況	/	/	A・C		/		/
	3. 接合部の状況	/	/	A・C		/		/
	4. 火打ち設置位置の確認	/	/	A・C		/		/
⑩添付図書	<input type="checkbox"/> 工事監理者報告書 <input type="checkbox"/> 確認図書 <input type="checkbox"/> 設計図書 <input type="checkbox"/> その他検査に必要な図書(事前打合せによる)							

※ 太線枠内は記入しないでください

# 木造軸組み工法チェックシート検査項目解説

## 1. 検査項目

一般的な軸組み工法による建築物の検査にあつては、木造軸組みの主要な部分について、部分形状や緊結状況が適切に施行されているかを検査する。なお、木造3階建軸組工法建築物の検査にあつては、設計時の構造計算等で部材や接合部仕様が決まって来ることから、特に構造上重要な部位が確認図書どおりに施工されているかを検査する。

## 2. 検査方法

検査の方法は、確認申請書に添付された図書のとおりに施工されているかを、目視により確認することを基本とし、必要に応じてスケール等により測定する。

木造3階建ての建築物については、設計時の構造計算で部材等が決まっていることから、確認申請書との違いがある場合には、変更後の仕様が建築基準関係規定に抵触していないことについて報告を求めた上で合否判定を行う。

以下、検査項目について解説する。

### ① 全体

主要な構造部材の配置について、確認図書どおりか確認するとともに、木材に構造上の欠陥となるような節、腐れ等がないか確認する。

### ② 基礎等

基礎の種類(布基礎、べた基礎等)に応じ、支持地盤、コンクリート、鉄筋の品質、配筋等に関する申請書4面の内容が確認図書どおりか確認するとともに、目視、計測できる範囲で形状、寸法の確認を行う。

- ・ 建築物に有害な欠陥をもたらす基礎のひび割れ状況を観察することも必要である。  
床下換気口の配置についても確認する。

### ② 土台

- ・ 形状・寸法が確認図書どおりか確認する。
- ・ 火打ち材が適切な位置に配置されているかを確認する。

### ④ アンカーボルトの配置や土台との緊結の状況、防腐、防蟻処理を確認する。

### ⑤⑥ 柱、横架材

- ・ 形状、寸法、欠込みのある場合の補強、通し柱の配置、通し柱に代わる管柱の補強などが確認図書通りか確認する。
- ・ 柱と基礎又は柱と土台との金物による接合が適正に行われているか確認する。
- ・ 柱と横架材の金物による接合状況や接合金物の確認を行う。
- ・ 材料の防腐、防蟻処理を確認する。

### ⑦ 筋かい

- ・ 筋かいの配置が確認図書どおりか確認する。
- ・ 形状、寸法、欠込みのある場合の補強等などが確認図書どおりか確認する。
- ・ 柱や横架材との接合位置や接合状況、接合金物の確認を行う。
- ・ 材料の防腐、防蟻処理を確認する。

なお、金物については確認申請書及びその添付図書に記載された金物との照合を行う。

### ⑧ 床組等

- ・ 根太や床板(構造用合板等)形状、寸法などが確認図書どおりか確認する。
- ・ 接合部の状況や接合金物の確認を行う。
- ・ 床組の配置が確認図書どおりか確認する。

### ⑨ 小屋組等

- ・ 小屋束、もや、棟木及びたるきの形状、寸法、振れ止めの状況などが確認図書どおりか確認する。
- ・ 火打ち材が適切な位置に配置されているかを確認する。
- ・ 接合部の状況や所要の金物が適正に使用されているかの確認を行う。